

パレスチナにおける『分離壁』の建設について

中村 友香

ヨルダンのバカア難民キャンプで訪れた小学校の壁に張られていた中東の地図に「イスラエル」という国はなかった。そこに代わりにあったのはイスラエル、ヨルダン川西岸地区、ガザ地区を含む「パレスチナ」だった。現在世界には約 600 万人のパレスチナ難民がいるといわれている。この中には、1948 年のイスラエルの建国によって住んでいる土地を奪われ、周辺地域に逃れた人々以外にも、イスラエルが建国されたときもその地にとどまり、その後イスラエルの国籍を得た約 70 万人の人々、それ以前からヨルダン川西岸やガザに住んでいて長くイスラエルの占領下に置かれている人々、あるいは欧米に移住した人々も含まれているが、いずれにせよパレスチナ難民の多くは 1948 年以前の「パレスチナ」への帰還を半世紀以上経った現在でも望み、パレスチナ国家の建国を信じている。

しかし今、彼らの帰る土地がなくなりつつある。というのも、イスラエルがヨルダン川西岸地区内に建設している“壁”によって、パレスチナ人の土地は彼らが第一次世界大戦後のイギリスによる委任統治時代以前に住んでいた土地のたった 12% になってしまうのである。イスラエル政府は壁建設の理由として治安維持、安全保障を前面に挙げ、将来の境界線とは関係のない、完全に政治的戦略に基づいた、「和平プラン」の一部であるとさえしているが、それならばなぜ壁は 1947 年に始まった第一次中東戦争の停戦ラインであるグリーンラインからパレスチナ側に大幅に食いこみ、住民から土地を奪い、パレスチナを無数の孤島に分断するように建設されるのか。そのことによって人々が被る社会的、経済的、人道的被害は軽視できるものではない。そこには、壁建設はイスラエルの安全保障に留まらず、それによってパレスチナの経済、社会を破綻させ、将来に向けたパレスチナ国家の建国を阻むという真の目的が伺える。

第一章では壁建設にいたるまでのパレスチナ問題の概略をたどり、第二章においては壁そのものについて説明し、第三章で壁建設が周辺の社会、経済、環境に及ぼす影響を述べ、第四章では壁の建設に対するイスラエル、パレスチナ、に加えて国際司法裁判所の見解を紹介し、最後に第五章において今後のパレスチナ和平への展望を述べる。

主要参考文献

PENGO (2003) "The Wall in Palestine" Jerusalem

パレスチナの平和を考える会 (2005) 『パレスチナ農民が語る「隔離壁」が奪ったもの』

土井敏邦 (2004) 『現地ルポ パレスチナの声、イスラエルの声』岩波書店

STOP THE WALL <http://www.stophewall.org/>

Peace for Palestine <http://palestine.at.infoseek.co.jp/>

Gush Shalom <http://zope.gush-shalom.org>